登録の現況

会員数減少も登録頭数は微増

3年ぶりに前年度頭数を超える

令和6年度（令和7年1月末現在）の都府県別の血統登録申込み、移動証明をはじめ各種申込並びに会費納入件数を左表に示しました。

血統登録雌牛申込頭数は個別・自動登録含め、3万670頭で前年度同期より290頭の増となり、率にして101％となりました。前年度の頭数を超えるのは実に3年ぶりです。

令和6年10月に全国の酪農家戸数が一万戸を割ったという報道がありましたが、依然として酪農家を取り巻く情勢は厳しい状態が続いております。この状況は日本ホルスタイン協会の会員数の減少にも繋がっておりますが、今年度の血統登録の増加は、各県の登録委員及び関係者が登録普及推進にご尽力いただいた結果であると思われます。

酪農家をはじめ、皆様に厚く感謝を申し上げるとともに、今後も登録頭数の増加が続くことを期待したいと思います。

自動登録率は8割目前

血統登録全体で増加になりましたが、自動登録も同じく、今年度の申込は2万3952頭となり、前年度同期より91頭の増、率にして104％となりました。

全体で見ると半数以上の都府県で増加しており、特に熊本県（190頭）、群馬県（143頭）、岡山県（136頭）、鹿児島県（135頭）、岩手県及び大分県（113頭）では100頭以上の増加となりました。血統登録全体に占める自動登録の率は78・1％となり、前年度よりも2・3ポイント上昇。令和元年度と比較すると10ポイントも増加しました。

一方、自動登録実施農家戸数は1864戸と、前年度より24戸減少しています。このような中で登録頭数が増加に転じたのは、大型農家の自動登録への切り替わりや、審査中の普及推進、各県担当者の推進活動による成果だと思います。

自動登録は全頭登録が必須となりますが、個別登録よりも安価で素早く登録されるのが自動登録の最大のメリットです。牛舎にいる全頭を血統登録することによって牛群改良がより一層進みますので、引き続き日本ホルスタイン共進会が素晴らしいものとなるよう一丸となって支援していく」と、力強い挨拶が述べられた。

移動証明は減少の一途

移動証明申込件数は1554頭で、前年度同期より289頭の減少となりました。移動証明が不要な自動登録の普及に伴い、移動証明の件数も年々減少しています。

一方で、従来の申込書が必要な個別登録では、牛が移動し所有者が変更された場合には移動証明申込みが必要です。血統登録の事故照会理由の一位は「証明書不備」で、次に多いのが母牛の「移動未了」です。

私たちの身の回りでも車等の名義を変更しなければならない場合は必要に応じて変更をしていますが、それは牛でも同じことです。牛を移動して所有者が変わりましたら、忘れずに移動証明の申込みをお願いします。

会費納入は毎年200件以上減少続く

離農等による会員減少に伴い、会費の減少も続いております。今年度の会費納入件数は3607件で、前年度同期よりも245件減少しました。

会員の増加よりも減少する県の方が多くなっています。平成31年1月末の会費納入件数は4996件でしたが、現在までに約1400件減少していて、毎年200件以上減少している状況です。

（事業部・國行）

表　各種登録等申込み状況（令和6.4.1～令和7.1.31）

	血統登録申込		自動登録申込		移動証明申込		会費	
県名	累計	同期比	累計	同期比	累計	同期比	累計	同期比
青森	606	−25	370	6	40	−49	119	−14
岩手	3,772	−81	2,053	113	103	−203	543	−34
宮城	363	−55	300	−31	4	−4	141	−10
秋田	282	8	276	8	1	−2	51	−3
山形	332	−18	232	−1	15	2	85	−11
福島	1,051	92	866	63	47	11	173	−21
茨城	1,596	−72	1,426	−58	20	1	136	−8
栃木	1,898	−15	1,659	−23	23	14	157	−16
群馬	2,619	−171	1,901	143	221	−46	155	0
埼玉	253	42	174	21	0	−1	20	3
千葉	822	99	709	76	15	8	79	1
東京	151	3	100	9	16	9	23	0
神奈川	217	−81	102	−7	4	−19	36	−4
新潟	259	1	122	37	15	3	32	−6
富山	145	−21	133	−24	0	0	12	2
石川	39	14	22	3	1	0	1	−2
福井	80	−14	78	−15	0	0	9	0
山梨	215	−18	181	−8	15	4	40	−3
長野	691	33	537	61	50	24	124	−10
岐阜	420	27	301	5	4	−5	40	3
静岡	446	−36	409	−28	3	2	88	0
愛知	1,759	−52	1,516	−31	51	26	157	−10
三重	32	7	6	1	8	1	20	1
滋賀	215	11	189	13	12	−9	16	−2
京都	120	−17	100	−6	11	2	17	1
大阪	92	−7	70	1	2	−21	9	−5
兵庫	511	−53	354	−38	66	−10	93	−5
奈良	1	−5	0	0	0	0	2	0
和歌山	0	0	0	0	0	0	0	0
鳥取	1,528	41	1,476	14	2	1	84	−2
島根	222	29	149	−2	15	−5	20	−1
岡山	1,305	158	1,214	136	0	−4	91	−10
広島	393	53	305	−2	102	39	43	−7
山口	212	−4	189	2	0	−4	22	−3
徳島	66	23	7	4	8	−8	6	1
香川	75	24	75	24	0	0	9	1
愛媛	302	39	200	85	10	−6	33	−5
高知	114	5	79	16	0	−23	12	0
福岡	841	−179	649	−80	15	4	94	−13
佐賀	123	21	109	41	3	−2	14	−2
長崎	122	−15	122	−11	1	−2	27	−8
熊本	3,341	277	2,743	190	395	20	426	−21
大分	623	105	494	113	43	14	12	−5
宮崎	765	−77	598	−34	64	−44	187	−11
鹿児島	1,429	127	1,327	135	25	−27	119	−8
沖縄	218	68	30	−2	104	59	30	2
国・牧場	4	−1	0	0	0	0	0	0
事業団	0	0	0	0	20	−39	0	0
合計	30,670	290	23,952	919	1,554	−289	3,607	−245

自動登録の『事故照会』を減らしませんか？

～確実な授精報告のお願い～

日本ホル協では、申込書不要・証明書発行が早い・料金割引の「自動登録」を引き続き推進しています。今年度の都府県における自動登録率（血統登録雌牛のうち自動登録によるものの割合）は78・1％まで増加する見込みです。会員農家や登録委員の皆様にはご理解ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

自動登録増加に伴う事故照会増加が課題

自動登録を実施する農家は増えているのですが、残念ながら事故照会も増えている問題があります。

それは、自動登録の対象牛のうち約2割が登録上何らかの不備があり、スムーズに血統登録証明書を発行できていないことです。その多くが授精報告の不備によるもので、令和6年度自動登録申込件数（令和7年2月末現在）3万710件のうち、4830件が「授精報告はされているが内容に不備がある」というものでした（図1参照）。

授精報告に不備があると、父牛を確定できないため、血統登録証明書を発行することができません。この場合、授精記録を確認するために「事故照会」の文書を送付しており、血統登録証明書を発行するためには授精証明書などの送付が必要となります。

なぜ自動登録なのに事故照会ばかり届く？

「自動登録を始めたのに、血統登録証明書が来ない！代わりに事故照会の書類ばかり届く…なぜだろう？」と思っている方はいらっしゃいませんか？

自動登録は1頭1枚の申込書記入が不要ですが、必要な作業があります。それは、家畜改良センターへの「出生報告」と、子牛が生まれる前までの「授精報告」です。

「出生報告」は耳標装着とともに義務付けられているため比較的問題なく行われていますが、「授精報告」は農家や母牛の状況によって漏れていることがあり、これが事故照会の要因となっています。

また、授精報告のタイミングは子牛が生まれた後ではなく、授精を行った都度、受胎・不受胎に関わらず報告するようにお願いしています。この理由は、自動登録の仕組みの話になりますが、授精の都度報告された授精データは家畜改良データバンクに蓄積されており、子牛の出生報告が出されたタイミングで、出生報告データに授精データが紐づけされて日本ホル協に送信されてくるため、出生報告した時にはすでに授精報告が終わっていなければならないからです。

授精報告漏れの原因は次のことが考えられます。当てはまる方は是非とも改善をお願いします。

【牛群検定繁殖情報を利用する自動登録農家の場合】

①立会時の授精報告漏れ

牛群検定立会の際に検定員へ授精報告されていないことがあります。必ず前月検定以降の授精記録を検定員に報告してください。

②未経産牛の牛群検定加入の遅れ

未経産牛はまだ搾乳していないので、「牛群検定へは分娩してから加入する」という農家が一定程度おられますが、これが原因となり、初産で生まれた子牛がすべて事故照会になってしまう事例があります（図2参照）。

未経産牛は、初産分娩する前までに牛群検定に加入し、授精報告を行ってください。育成牧場への預託牛も同様です。

また、未経産牛も牛群検定に早期に加入することで、牛群全体の分娩頭数の予測や未経産牛の繁殖成績を把握することにも繋がります。

【インターネットで授精報告する自動登録農家の場合】

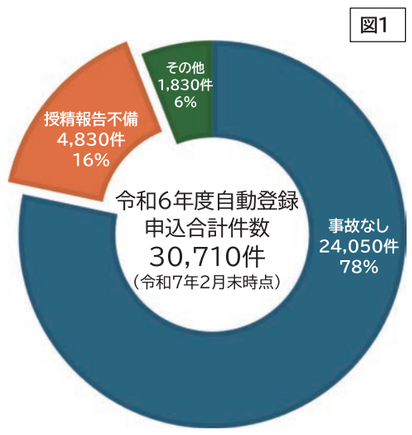
自動登録を開始する際に、インターネットでの授精データ入力を選択したにも関わらず、入力するのを忘れている、もしくは入力方法が分からなくなってしまっている方がおられます。今一度、インターネット入力についてご確認をお願いします。マニュアルは日本ホル協Webサイトから入手できます。

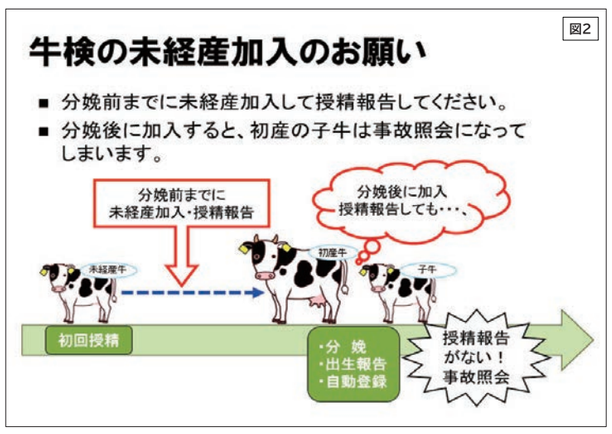
◇◇◇

自動登録のメリットは、血統登録証明書の発行が早く、書類がいらないことです。しかしながら、事故照会になってしまうと証明書発行は遅くなり、書類提出が必要になってしまいます。

是非とも確実な授精報告を行っていただきますようお願いいたします。

（事業部・門間）





第46回通常総会

全国ホルスタイン改良協議会

―第16回全共に向け一丸となって支援―

全国ホルスタイン改良協議会（中六角保広会長）は2月21日、（一社）家畜改良事業団会議室において第46回通常総会を対面とWebを併用したハイブリッド形式により開催し、前年度事業報告並びに収支決算報告、令和7年度事業計画案並びに収支予算案、任期満了に伴う役員改選について協議し、全て原案どおり可決承認された。開会に先立ち中六角会長から、「第16回全日本ホルスタイン共進会が素晴らしいものとなるよう一丸となって支援していく」と、力強い挨拶が述べられた。

令和6年度事業等報告

事業報告では、昨年11月に愛知県で開催したジャッジング・スクールについて、愛知県・岐阜県の両ホルスタイン改良同志会並びに愛知県酪農協、愛知県畜産総合センターの協力のもと、全国21都道県・AI事業体から総勢140名の参加により盛会に開催されたことが報告された。

来年度事業計画では、ジャッジング・スクールを7月に青森県において開催すること、セミナー・酪農講演会については、時々刻々と変わる世界情勢、或いは国内情勢について研修会を開催するとともに、国内優良遺伝子の有効活用が図れるよう情報発信を行っていくこと等が報告された。

総会終了後に開催した第94回理事会において、新三役・代表監事が互選により決定した。なお、新役員は左記のとおり。

山本新会長

新役員

会長：山本真五（中国地区・岡山県）
副会長：吉田智貴（北海道地区）、中村毅（九州地区・福岡県）
理事：八幡勝幸（東北地区・岩手県）、三輪圭吾（関東地区・群馬県）、高橋直人（中部北陸地区・静岡県）、出口順也（近畿地区・兵庫県）、和氣啓介（四国地区・愛媛県）
代表監事：伊藤宏（関東地区・神奈川県）
監事：宮垣俊介（中部北陸地区・岐阜県）、山下大介（中国地区・鳥取県）

認定ジャッジマン11名

愛知県で開催したジャッジング・スクールにおいて優秀な成績を修め、新たに認定ジャッジマンの資格を取得した11名は次のとおり。全国各地の共進会並びにB&Wショウでの活躍に期待したい。

編田尚弘氏（北海道）、小原潤哉氏（北海道）、清水利月氏（岩手県）、川村亮氏（千葉県）、内田利光氏（静岡県）、今山陽一氏（宮崎県）、岡橋勇太氏（一社）家畜改良事業団）、水野賢一氏（一社）家畜改良事業団）、只石大喜氏（株）野澤組）、粂咲良氏（株）野澤組）、平川黎氏（ABS（株））

日本ホル協特集

今後の行事

日本ホル協

◇第327回理事会
3月21日（ビジョンセンター品川）
◇社員選挙
5月15日、各選挙区
◇社員選挙管理委員会
5月16日（日本会議室）
◇令和6年度決算監査会
5月16日（日本会議室）
◇第328回理事会
5月30日（AP東京八重洲）
◇第329回理事会
6月20日（AP東京八重洲）
◇令和7年度地区別登録委員研修会および支部・承認団体夏期登録事務担当者会議
7月中旬～8月上旬、各ブロック開催
◇第16回全共出品委員現地打合会
8月1日（全共会場）
◇第16回全日本ホルスタイン共進会
10月25日～26日（全共会場）

牛群審査で長命連産な牛群へ

審査日程

令和７年4月～令和７年7月

中国・四国地区

鳥取	04月14日～23日
島根	04月24日～25日
岡山	05月21日～30日
広島	06月23日～26日
山口	05月19日～20日
徳島	05月22日～23日
香川	－
愛媛	04月21日～25日
高知	05月20日～21日

北陸・中部地区

新潟	06月03日～06日
富山	04月16日～17日
石川	04月18日
福井	－
山梨	04月21日～23日
長野	07月14日～23日
岐阜	04月21日～25日
静岡	06月10日～13日
愛知	05月14日～23日
三重	05月13日

東北地区

青森	04月15日～18日
岩手	06月02日～07月04日
宮城	04月21日～25日
秋田	04月07日～11日
山形	04月07日～11日
福島	06月09日～13日

九州地区

福岡	06月30日～07月11日
佐賀	07月15日～16日
長崎	07月17日～18日
熊本	06月02日～27日
大分	04月15日～18日
宮崎	06月24日～07月03日
鹿児島	07月01日～10日
沖縄	07月14日～16日

近畿地区

滋賀	07月08日～09日
京都	07月10日～11日
大阪	07月18日
兵庫	07月14日～17日
奈良	－

関東地区

茨城	07月01日～10日
栃木	06月04日～20日
群馬	05月12日～30日
埼玉	05月14日～16日
千葉	06月02日～16日
東京	05月27日～28日
神奈川	06月17日～19日

（注）日程の詳細は、各都府県の日本ホル協支部・承認団体に、お問い合わせください。　※令和7年2月末現在

乳牛のことなら・・・
ホル農協にお任せください!!
HOKKAIDO

2025　全日本ホルスタイン共進会北海道大会
開催期日／令和７（2025）年10月25日（土）～26日（日）
開催場所／北海道ホルスタイン共進会場（勇払郡安平町早来新栄）

2025 ゴールデン ナショナル セール　10月25日 17：00～
★国内最高の遺伝資源を集め開かれる日本一の乳牛セール

市場
開催日／毎週火曜日 受付 8:00～ セリ 9:00～
場所／勇払郡安平町早来新栄
TEL0145-22-2288
新千歳空港から車で約 15 分
出品家畜／乳牛、乳廃牛、初生犢、肉牛、馬、羊

幹旋
豊富な経験と
確かな情報をもとに、
皆様のご用命にお応えします。
選定から価格交渉、輸送、
事故補償まで
サービスも万全!!

《市場・幹旋のお問い合わせは》 ホルスタイン農協 経済部まで
北海道ホルスタイン農業協同組合
〒001-0015　札幌市北区北 15 条西 5 丁目 1-5
【代　表】TEL 011-726-3111　FAX 011-726-3135
【経 済 部】TEL 011-726-3114　FAX 011-700-2837
ホームページアドレス：https://www.holstein.or.jp/hhac/index.html